

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町 3 7 5 番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@hotmail.com

http://www.zuirenji.net/

Shinshū Ōtani-ha

Jiunzan Zuirenji

Jiunkai

慈雲



爾時世尊  
告韋提希  
汝今知不  
阿彌陀佛  
去此不遠

その時に世尊（せそん）、韋提希（いだいけ）に告げ  
たまわく、「汝（なんじ）いま知れりやいなや、阿弥  
陀仏（あみだぶつ）、此（ここ）を去（さ）りたまう  
こと遠（とお）からず。

【『観経』の言葉】

この時初めてお釈迦  
さまは韋提希夫人に対  
して口を開かれました。  
「韋提希よ、あなたはち  
やんとわかっています  
か、もしくはそのことに  
しつかりと気がついて  
いませんか、阿彌陀さま  
は此処を去られて遠く  
におられるのではない  
のですよ。」これは韋提  
希夫人が「私は極楽世界  
におられる阿彌陀さま  
のもとへ参りたいので  
す。」と言われたことに  
答えられたのです。韋提  
希夫人は一切を引き受  
けて前を向いて歩き始  
めようとしている姿を  
お釈迦さまは見逃さず、  
その夫人の心に芽生え  
た求道心（それは阿彌陀  
さまの呼び声が夫人に  
届いたもの）を押さえて  
このようにおっしゃら  
れたのです。そこをしつ  
かり知るべきであると  
いうことで、お釈迦さま  
は言葉が発して念を押  
されたのです。

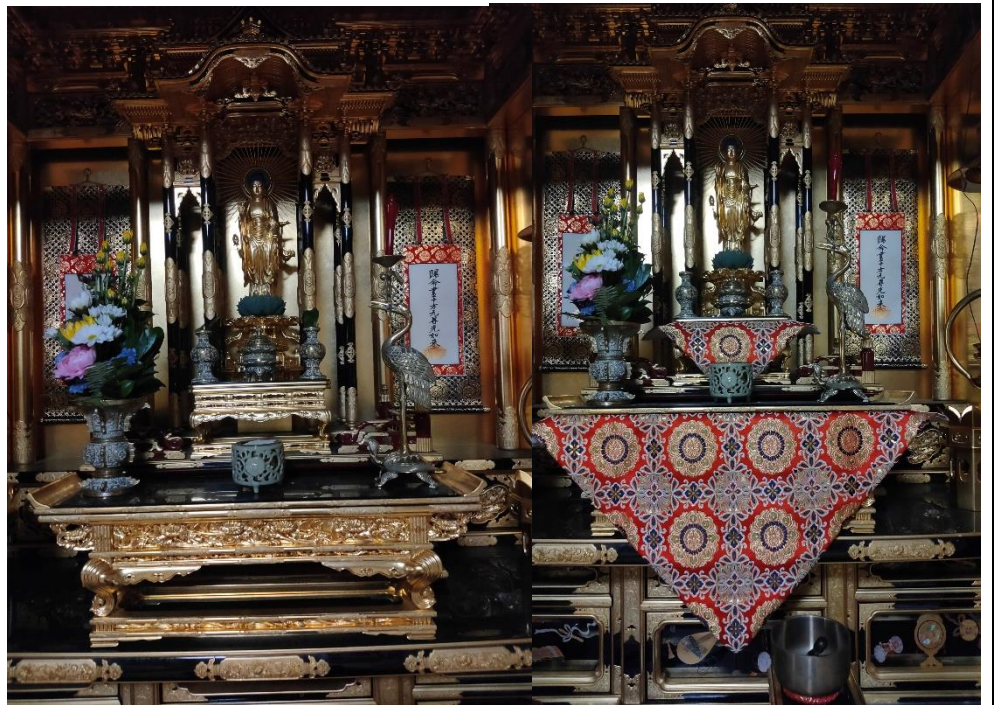
## ○おみがきのご案内

八月一日(日) 午前八時三十分より  
九月十七日(金) 午前九時より  
十一月十一日(木) 午前九時より  
十二月十九日(日) 午前九時より  
皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

## ○法事の勤め方(その二)

今回は法事当日の具体的な準備などについて述べてみたいと思います。まずお仏壇(お内仏といひます。)の清掃をいたします。可能な限りお仏具を一旦取り出します。(後で戻すときのために写真をとっておきましょう。)きれいになったらひとつずつお仏具を戻していきます。前卓(まえじよく)に打敷(うちしき)を掛けて荘厳します。前卓の上には三具足(みつぐそく)といって基本になる三種のお仏具を置きます。向かって右側に鶴亀(つるかめ・かひん)、真ん中に土香炉(どごうろ)、左側に花瓶(かひん)の順です。(写真右)

通常時に打敷は掛けません。年忌法要や報恩講の際にお荘厳として掛けます。そして法要が終わればまたはずします。(写真左)



お供え物は毎日のお仏供(ぶく・おぶっぱん)とお華束(けそく)を備えます。丸小餅ですが、これを売っている店が近年減っており手に入りにくいという声を最近よく耳にします。

編集後記

○今回は半分のページ数の紙面でお届けします。

○私事になりますがこの七月二十七日で還暦を迎えます。瑞蓮寺に養子として入寺しましたのが二十六歳でしたのでそれから三十四年が経ちました。父である先代住職が平成十七年に亡くなりましたので、ちょうど先代と一緒に過ごした時期と同じ年月を経たこととなります。お寺の仕事を通じて京都の事、地域の事などいろいろと教えてもらいました。まだまだ知らないことからないことがたくさんあります。還暦ということでもまた一歳から始めるつもりで精進していきたいと思っております。

○さらに私事で恐縮です。子供のころから腎臓に嚢胞(のうほう)という水袋の様なものが数多くあると言われてきました。この度「多発性嚢胞腎」と正式に診断され、「サムスカ」という薬を服用し始めることになりました。利尿作用がきつくトイレに行く回数が増えました。お手洗いをお借りすることが増えると思えます。よろしくお願いいたします。

住職